

MGC

2022年度 第3四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2023年2月9日

証券コード

4182



1 | 2022年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

1 | 2022年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

2022年度 第3四半期 業績サマリー

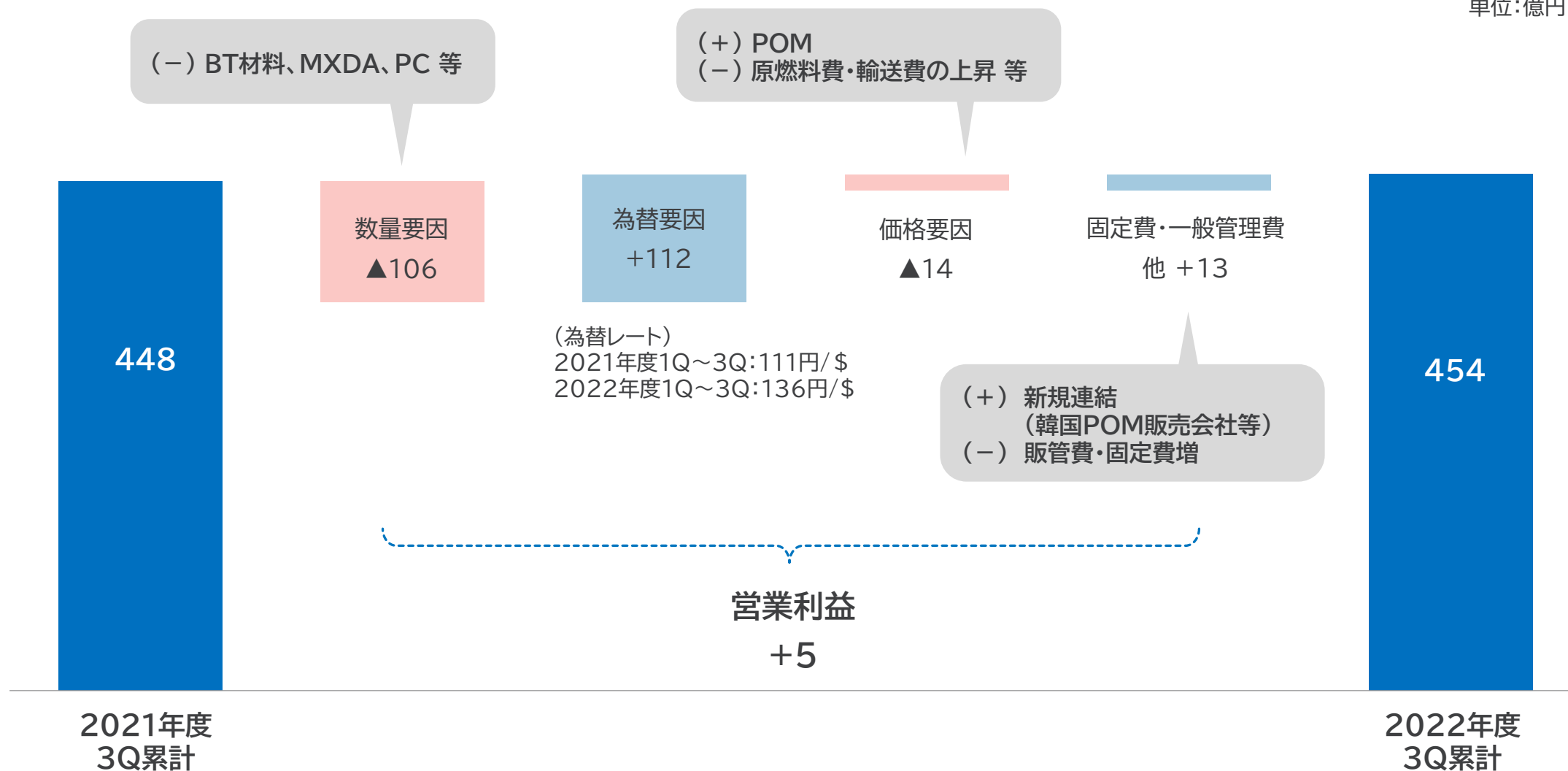
- 原燃料価格や輸送費の上昇、電子材料の需要落ち込みなどが減益要因となったものの円安効果や、ポリアセタールの販売好調などもあり増収増益

単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増 減	
			金額	%
売上高	5,252	5,993	740	14.1
営業利益	448	454	5	1.1
(持分法利益)	(109)	(143)	(34)	-
経常利益	583	637	54	9.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	393	445	51	13.1
一株当たり四半期純利益(円/株)	189.16	216.59		
為替レート(JPY/USD)	111	137		

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

2022年度 第3四半期 営業利益 増減要因(前年比)

単位: 億円



1 | 2021年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

セグメント別 売上高・営業利益・経常利益



単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増減
売上高	5,252	5,993	740
基礎化学品	3,167	3,657	489
機能化学品	2,125	2,391	265
全社/調整	▲39	▲55	▲15
営業利益	448	454	5
基礎化学品	235	189	▲45
機能化学品	244	284	40
全社/調整	▲30	▲20	10
経常利益	583	637	54
基礎化学品	288	290	1
機能化学品	312	335	22
全社/調整	▲18	12	30

【参考】主要製品群(旧セグメント別)

単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増減
売上高	5,252	5,993	740
天然ガス系化学品	1,678	1,871	193
芳香族化学品	1,516	1,816	300
機能化学品	1,583	1,904	320
特殊機能材	542	487	▲54
全社/調整	▲67	▲86	▲19
営業利益	448	454	5
天然ガス系化学品	83	82	▲0
芳香族化学品	151	106	▲45
機能化学品	116	201	84
特殊機能材	126	82	▲44
全社/調整	▲29	▲19	10
経常利益	583	637	54
天然ガス系化学品	135	175	40
芳香族化学品	153	115	▲38
機能化学品	175	230	55
特殊機能材	137	104	▲33
全社/調整	▲17	12	30

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

2022年度3Q実績

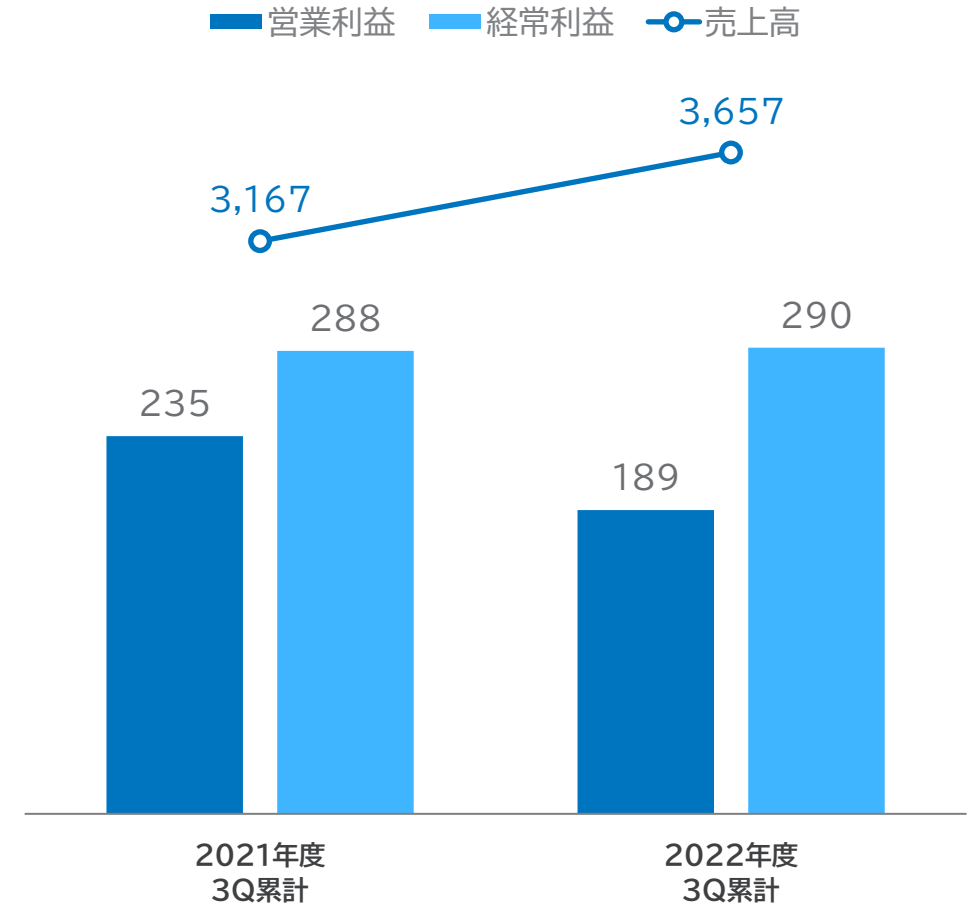
売上高:円安や、原燃料高を受けての販売価格改定などにより増収

営業利益:円安効果があったものの、原燃料価格や輸送費の上昇、MXDAの一時的な装置トラブルなどにより前年同期を下回る

持分法損益:メタノール市況は下落も、海外メタノール生産会社における繰延税金負債の取り崩しにより増益

- メタノール:市況は前年同期に比べ下落(21年度1Q~3Q 394ドル→22年度1Q~3Q 366ドル)も、円安効果もあり増収。持分法損益も増益
- メタノール・アンモニア系化学品:原燃料価格が上昇した中で採算是正を進めるも、ネオペンチルグリコールの市況が悪化したことにより、前年同期を下回る損益
- ハイパフォーマンスプロダクツ:芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、MXDAの一時的な装置トラブルなどから減益
- キシレン分離/誘導品:原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから減益
- 発泡プラスチック(JSP):原燃料価格等の上昇に対する製品価格改定時期の遅れなどにより、減益

単位:億円



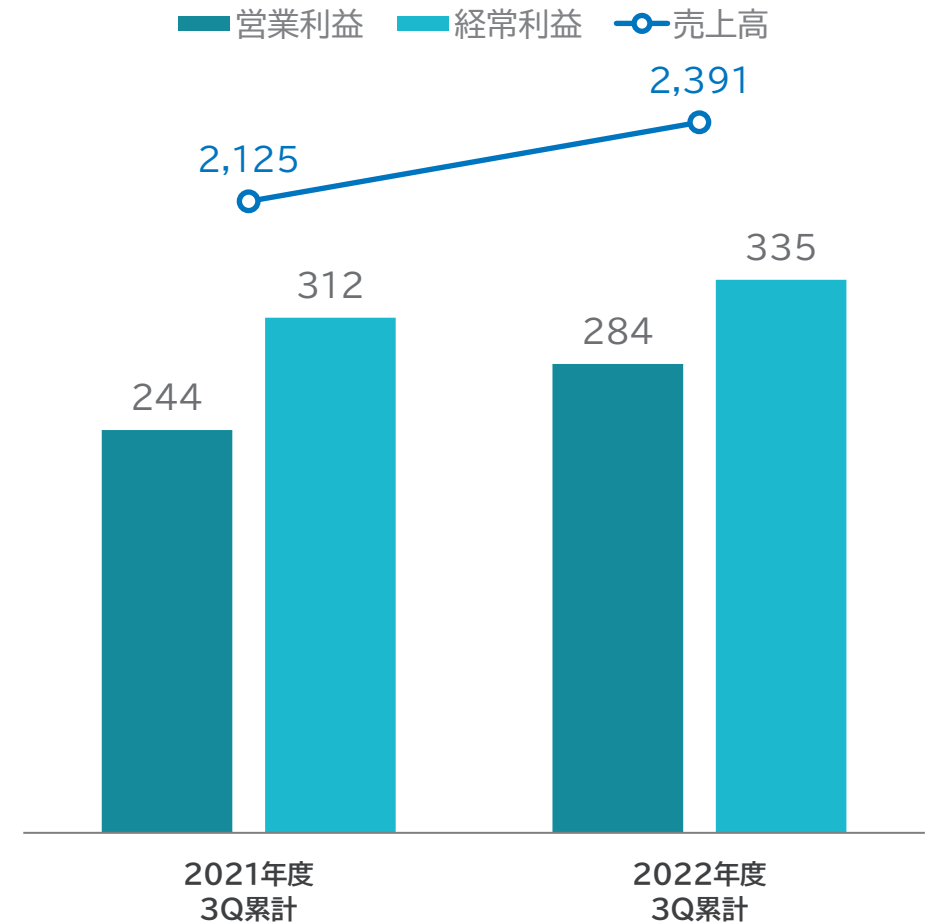
2022年度3Q実績

売上高:円安効果に加え、ポリアセタールや無機化学品の販売数量増加等により増収

営業利益:ポリアセタールの増益などにより増益

- **無機化学品:**半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、輸送費や原燃料価格が上昇したことなどから減益
- **エンジニアリングプラスチック:**ポリカーボネート、ポリカーボネートシート・フィルムの販売数量が減少したものの、ポリアセタールの販売が好調に推移したほか、韓国ポリアセタール販売会社の新規連結化などもあり増益
- **光学材料:**前年同期の顧客の在庫調整は解消したものの、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が低調に推移したことなどから、前年同期並みの損益
- **電子材料:**主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電向けなどの汎用材料の需要が落ち込んだことに加え、3Qにはスマートフォンやメモリ向け高機能材料の需要も減少したことなどから減益
- **脱酸素剤:**海外向け販売が円安影響もあり食品分野を中心に堅調に推移したものの、原材料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益

単位:億円



1 | 2021年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

2022年度通期 業績予想

— 電子材料の販売数量減、ポリカーボネートの収益環境の悪化などにより、前回予想比で下振れ

単位:億円	2022年度 前回予想*	2022年度 今回予想	増 減		2021年度 実績
			金額	%	
売上高	8,100	7,900	▲200	▲2.5	7,056
営業利益	600	520	▲80	▲13.3	553
(持分法利益)	(169)	(173)	4	-	(148)
経常利益	800	720	▲80	▲10.0	741
親会社株主に帰属する当期純利益	570	500	▲70	▲12.3	482

*2022年11月8日公表

一株当たり当期純利益(円/株)	277.63	243.54			232.15
ROE (%)	9.7	8.5			8.8
ROIC※ (%)	10.3	9.0			10.4
為替レート(JPY/USD)	137	135			112

※ROIC=経常利益/投下資本

【基礎化学品】

- メタノール: 中国などの需要停滞により、下期市況予想を350ドルへ修正(前回予想390ドル) (3Q 347ドル、4Q 355ドル)
- ハイパフォーマンスプロダクツ: 欧米向けを中心に需要は下振れ。ただし3Qから4QにかけてはMXDA装置トラブル後の数量回復を見込む

※旧芳香族化学品セグメントは水島工場の大定修により、4Qにおいて修繕費の増加(3Q比で約20億円)を見込む(前回予想からは変更なし)

【機能化学品】

- 無機化学品: 無機化学品全体の営業利益は前回予想並み。半導体薬液は3Q以降、需要の減速感はあるものの、4Qに原燃料・輸送費上昇分の価格転嫁等進展を見込む。
- エンジニアリングプラスチック: ポリアセタールは堅調を維持も、ポリカーボネートは全体市況が弱含み減益を予想
- 光学材料: 光学樹脂ポリマーはスマートフォン需要全般の弱さが継続しており、前回予想並み。3Qは旧正月前の在庫取りもあり販売は堅調だったが、4Qはその反動もあり3Q比減益の見込み
- 電子材料: BT材料は、PCや家電向けなどの汎用材料に加え、スマートフォンやメモリ向けの低熱膨張材、高周波材においても需要が減少し、前回予想比で下振れ。4Qはスマートフォン新機種向けの生産開始により3Q比では若干の回復を見込む

■為替前提: 1米ドル130円(前回予想比10円の円高)、1ユーロ140円(前回予想と同じ)

(為替感応度(USD、概算): 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益))

■原油価格前提: 85ドル/bbl.(前回予想比15ドル/bbl.の下落)

(原油感応度(USD、概算): 1\$/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

Appendix

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度(実績)			2022年度(実績/前回予想)*			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	3,949	4,150	8,100	3,949	3,950	7,900
基礎化学品	2,009	2,244	4,253	2,363	2,563	4,926	2,363	2,431	4,795
機能化学品	1,375	1,479	2,855	1,618	1,619	3,238	1,618	1,555	3,174
全社/調整	▲26	▲25	▲52	▲33	▲32	▲65	▲33	▲36	▲69
営業利益	300	253	553	335	264	600	335	184	520
基礎化学品	158	98	257	144	64	209	144	45	190
機能化学品	159	176	336	203	219	423	203	156	360
全社/調整	▲18	▲21	▲40	▲13	▲19	▲32	▲13	▲17	▲30
経常利益	387	353	741	499	300	800	499	220	720
基礎化学品	191	109	300	208	123	332	208	114	323
機能化学品	207	246	454	253	202	455	253	153	406
全社/調整	▲11	▲2	▲13	37	▲25	11	37	▲46	▲9

*2022年11月8日公表

2022年度 第3四半期 貸借対照表



単位:億円	2022年3月末	2022年12月末	増 減
流動資産	4,522	5,202	680
現預金	1,020	1,204	183
売掛債権	1,765	1,967	201
棚卸資産	1,556	1,822	265
その他	179	208	29
固定資産	4,764	5,366	601
有形固定資産	2,763	3,096	332
無形固定資産	112	121	9
投資その他の資産	1,887	2,147	260
資産合計	9,286	10,568	1,282

単位:億円	2022年3月末	2022年12月末	増 減
負債	2,977	3,859	881
買掛債務	923	1,073	149
有利子負債	1,176	1,741	565
その他	877	1,044	166
純資産	6,308	6,709	401
株主資本	5,472	5,689	216
その他包括利益累計額	215	360	145
非支配株主持分	621	660	39
負債・純資産合計	9,286	10,568	1,282
自己資本比率	61.2%	57.2%	

参考：各種指標（1）

単位：億円	2018	2019	2020	2021	2022(予)
設備投資額 [3Q累計]	392 [287]	423 [321]	402 [267]	547 [416]	680 [490]
減価償却費 [3Q累計]	274 [203]	295 [219]	306 [226]	319 [239]	330 [249]
研究開発費 [3Q累計]	186 [138]	196 [140]	199 [149]	210 [156]	235 [171]
年度末人員(人)	8,276	8,954	8,998	9,888	10,398
一株当たり当期純利益 (円/株)	257	101	173	232	243
ROA(総資産経常利益率) (%)	8.7	3.9	6.2	8.4	7.2
ROE(自己資本当期利益率) (%)	11.3	4.3	7.1	8.8	8.5
ROIC(投下資本利益率) (%)	10.9	4.9	7.7	10.4	9.0
一株当たり 配当金(円/株) [うち中間配当]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]

※記念配当10円を含む

参考：各種指標（2）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	4~12月実績	1~3月実績	4~12月実績	1~3月予想
為替(JPY/USD)	110	112	109	109	107	105	111	116	137	130
為替(JPY/EUR)	130	127	121	120	121	126	131	130	141	140
原油価格(Dubai) (US\$/bbl.)	73	65	64	56	37	52	72	96	97	85
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	408	335	277	245	194	319	394	412	366	355
原料キシレン(US\$/MT)	845	730	705	640	420	560	780	975	1,040	895
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,100 ~3,700	2,200 ~2,450	1,250 ~2,200	1,250 ~1,500
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	2,650 ~4,050	2,650 ~3,050	1,800 ~2,900	1,850 ~2,300

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)

為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) : \$1/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール : メタノール市況 \$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

単位:億円	2021年度(実績)			2022年度(実績/前回予想)*			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	3,949	4,150	8,100	3,949	3,950	7,900
天然ガス系化学品	1,049	1,213	2,262	1,194	1,368	2,563	1,194	1,276	2,470
芳香族化学品	976	1,051	2,028	1,190	1,213	2,403	1,190	1,176	2,366
機能化学品	1,023	1,118	2,141	1,261	1,295	2,557	1,261	1,297	2,559
特殊機能材	353	361	715	358	324	682	358	258	616
全社/調整	▲43	▲46	▲91	▲54	▲51	▲106	▲54	▲57	▲112
営業利益	300	253	553	335	264	600	335	184	520
天然ガス系化学品	54	43	97	65	34	100	65	26	91
芳香族化学品	104	55	160	79	30	109	79	19	98
機能化学品	78	95	174	129	151	281	129	140	270
特殊機能材	80	81	161	74	67	141	74	15	90
全社/調整	▲17	▲21	▲39	▲13	▲19	▲32	▲13	▲17	▲30
経常利益	387	353	741	499	300	800	499	220	720
天然ガス系化学品	85	54	140	121	97	219	121	95	217
芳香族化学品	105	55	160	87	25	113	87	18	106
機能化学品	120	155	276	164	131	296	164	129	294
特殊機能材	86	91	178	88	70	159	88	23	112
全社/調整	▲10	▲2	▲13	37	▲25	11	37	▲46	▲9

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2022年11月8日公表

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見直しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL

03-3283-5041

URL

<https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

